

公益財団法人日本美術刀剣保存協会 令和3年度事業報告及び決算報告

I 事業の実施状況

1. 博物館事業

(1) 展示事業

令和3年度刀剣博物館の展示活動及び入館者数は34ページ表1の通り。

(2) 鑑賞会事業

定例鑑賞会

定例鑑賞会は8月及び12月を除く毎月第2土曜日に、午前1回、午後2回刀剣博物館講堂において開催し、鑑賞会には平均30名の出席がありました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、従来実施していた方法を一部変更して鑑賞刀の入札を行いました。

また定例鑑賞会にあわせて、平成24年9月から刀剣を手にとって鑑賞したことのない初心者の方向けの刀剣の扱い方、鑑賞の方法を学ぶための「日本刀鑑賞マナー講座」を予約制で開催、修了した方には修了証を発行し、令和3年度は14名の参加者がありました。なお、5月の定例鑑賞会及び日本刀鑑賞マナー講座は新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み、開催を見合わせました。

その他協力団体が公益事業として開催する鑑賞会に、依頼により鑑定刀の貸与及び講師の派遣を行いました。令和3年度は46件の依頼があり、刀剣類5点を貸与し、鑑賞の指導を講師(当協会学芸員)が行いました。協力団体開催の鑑賞会の出席者は平均20名でした。

(3) 作品発表会(現代刀職展)

新作名刀展(作刀、刀身彫、彫金の職方の作品)及び刀剣研磨・外装技術発表会作品展(研磨、白鞘、刀装、柄前、白銀の職方の作品)を改組

した2021年度現代刀職展を開催しました。この展示は現代作家の作品発表の場の提供及び多くの方に技倆の高さをアピールすることを目的としており、令和3年7月17日(土)～9月20日(月)までの開催期間で2,566名のお客様にご来場いただきました。

(4) 古伝書等の公開

当協会収蔵の古伝書、一般刀剣関係書籍等を月曜日から金曜日の10時から16時(12時～13時を除く)まで、事前予約制で一般の利用に供しました。

入室、閲覧は無料とし、コピーサービス(有料)も提供しました。令和3年度は35件の利用がありました。

(5) 刀剣相談

当協会に来館、または書面、電話での刀剣等に関するあらゆる相談を受け付け、刀剣類の文化財としての位置づけを認識していただくとともに、刀剣類の手入れ方法や保存方法についても助言いたしました。また銃砲刀剣所持等取締法に基づく所轄警察署への届出等、関係法令の周知徹底を図り、各都道府県教育委員会への登録申請の相談も受け登録業務に協力いたしました。

(6) 広報誌の発行

令和3年度は広報誌「刀剣美術」を71号から78号まで発行いたしました。当協会の編集委員及び編集担当職員が毎月編集委員会を開催して内容を検討し、投稿された刀剣関係の論文、随想、資料の紹介等の掲載の他、鑑賞会の報告及び当協会や刀剣界の情報発信源として、また刀剣類の知識の向上を目的として会員の皆様への配布のみならず、刀剣博物館においても一般に販売いたしました。

(7) ホームページ活用

『刀剣美術』誌と共に、当協会や刀剣界の情報発信源として活用しているほか、刀剣の知識が学べるようなページを構成しています。

また、『刀剣美術』誌の一部記事を英訳してホームページから見ることができるようにし、海外の研究者、愛刀家等の要望にも応えています。引き続き会員の皆様をはじめとしたお客様に分かりやすい情報発信に努め、お客様とのコミュニケーションツールとして運用してまいります。

2. 教育、講習事業

(1) 第54回刀剣研磨・外装技術研修会並びに鍛冶研ぎ研修会

刀職者の技術の向上とその普及を目的とするこの研修会は、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページで研修生を募集し、当協会講堂において令和3年6月25日(金)から6月30日(水)まで6日間開催いたしました。

研修部門は「研磨の部」「鍛冶研ぎの部」(前半3日間)及び外装の部として「白鞘の部」「柄前の部」「白銀の部」(後半3日間)であり、「研磨の部」は研師の無鑑査認定者の講師により、「仕上げ研ぎ」を研修テーマとして実施し、特別研修生2名、研修生1名、聴講生6名の参加がありました。「白鞘の部」は鞘師の講師により、「掻き入れの基礎技法」を研修テーマとして実施し、研修生1名、聴講生1名の参加がありました。

「柄前の部」は柄巻師の無鑑査認定者の講師により「柄巻の基礎技法」を研修テーマとして実施し、研修生1名、聴講生1名の参加がありました。「白銀の部」は鍮師の無鑑査認定者の講師により、「着せの基礎技法」を研修テーマとして実施し、研修生2名、聴講生5名の参加がありました。3年間の研修修了者は、研磨の部の特別研修生2名、研磨の部研修生1名、柄前の部の研修生1名、白銀の部の研修生1名がおり、修了証書を交付し、その他研修生、聴講生にはそれぞれ研修証書、聴講証書を交付いたしました。なお、鍛冶研ぎの部は諸般の事情により開催を見合わせました。

また、開催を予定しておりました刀職技能訓練講習会、作刀技術実施研修会及び日刀保たたらでの村下養成研修会は、新型コロナウィルス感染

症拡大状況を鑑み、中止となりました。

3. コンクール事業

(1) 2021年度現代刀職展

現代作家の技術の向上及び普及を目的に、新作名刀展及び刀剣研磨・外装技術発表会を改組、新たに現代刀職展とした作刀の部、刀身彫の部、彫金の部、研磨の部及び外装の部として白鞘の部、刀装の部、柄前の部、白銀の部の8部門について広報誌『刀剣美術』、協会ホームページ、刀剣博物館掲示板で公募し、作刀の部、刀身彫の部、彫金の部は令和3年4月5日(月)から7日(水)の間受け付け、令和3年4月14日(水)に審査会を開催し、また、研磨の部、白鞘の部、刀装の部、柄前の部及び白銀の部は令和3年6月1日(火)から3日(木)まで受け付けし、令和3年6月10日(木)に審査会を開催しました。無鑑査による出品は、作刀の部9点、彫金の部2点、研磨の部8点、柄前の部3点、白銀の部2点の合計24点でした。

令和3年7月29日(木)午後1時30分から第一ホテル両国5階清澄において表彰式を執り行い、入賞者に賞金、賞状及び副賞、入選者に入選証書をそれぞれ交付しました。また、各部門について審査員の代表が審査員講評を行いました。展示は令和3年7月17日(土)から9月20日(祝・月)まで刀剣博物館にて行いました。全部門の受付点数、審査結果は34ページ表2のとおりです。

4. 検定・資料収集事業

(1) 刀剣類の保存・特別保存審査

4月、7月、10月と1月を除き、毎月保存刀剣及び特別保存刀剣等の審査を実施し、刀剣は6月からの3か月毎に、刀装・刀装具は5月からの3か月毎に該当月の指定した3日間で受け付けます。受付点数に応じた審査会を複数回設け、審査は理事会の決議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に審査を行い、合格したものは鑑定書を発行しました。

なお、各審査月において継続的に多数の申請がある状況から、審査物件保全に万全を期すため、平成30年度よりそれまでの隔月から3か月毎の受付に変更しています。さらに、令和4年3月審査受付分から事前予約制とし、インターネットによる申請方法を導入いたしました。今年度の受付点数、合格点数は次の通りです。

区 分	受付点数	合格点数
保 存		
刀 剣	6, 762	4, 599
刀 装	363	187
刀 装具	3, 650	2, 108
特別保存		
刀 剣	3, 625	2, 460
刀 装	152	97
刀 装具	1, 105	910

(2) 刀剣類の重要・特別重要審査

第67回重要刀剣等審査は10月4日(月)から6日(水)までの3日間で受け付けいたしました。審査は理事会の議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に第1次及び第2次審査を行いました。指定品の指定書及び指定品を纏めた図譜を現在作成中です。

また、指定品の展示は令和4年1月8日(土)から2月20日(日)まで刀剣博物館において行いました。

受付点数、合格点数は次の通りでした。なお、2年毎に実施する特別重要刀剣等審査は、該当年ではないため実施しておりません。

区 分	受付点数	合格点数
第67回重要		
刀 剣	852	111
刀 装	50	11
刀 装具	261	45

(3) 資料収集

保存・特別保存・重要・特別重要各審査の合格物件すべての調書を作成し、写真もしくは押形と共に保管し、データベースで管理しました。過去の合格物件も順次データ化を進めております。

また、全国の重要文化財等の保管施設に職員を派遣し、刀剣押形等の貴

重な資料の収集を行い、収集した資料を刀剣美術にて公開しました。

5. 資格付与事業

(1) 無鑑査の選任

今年度末現在、無鑑査認定者は作刀の部が17名、彫金の部が3名、研磨の部が15名、外装の部が10名です。

(2) 伝位授与

伝位審議会を6月、9月、12月及び令和3年3月の4回開催し、初伝位5名、中伝位5名の合計10名の合格を認めるとともに、理事会等の決定により、それぞれ伝位証書を授与しました。

(3) 刀剣等指導員・刀剣等指導補助員登録

刀剣等指導員規程による指導員登録の申請が5名より提出され、いずれも刀剣等指導員規程第2条の資格を有しているため証明書が発行されました。刀剣等指導員の資格要件に中伝位以上を授与された者と規定されていることから、伝位授与と連動して指導員として刀剣文化の普及に活躍する人材を育てることを目的としています。なお、今年度は刀剣等指導補助員の申請はありませんでした。

6. たたら製鉄事業

毎年3代実施しているたたら操業を今年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況に鑑み、令和4年3月2日(水)から3月5日(土)まで1代実施しました。これに先立ち、操業開始前の準備として数日前より釜土の混練や本床への火入れなどを行いました。炉床の状態を整え、本操業に臨み、伝統技術の保存・伝承に努めました。

操業自体は下準備から始まり、釜作り・3昼夜操業・釜壊しを1単位つまり1代と数え、釜作り以降の作業を行い、約2・5トンの鉬を生産しました。

また操業終了後からは、生産された鉬を破碎し翌年度以降の玉鋼配布準備のため等級毎に選別する作業を行いました。

操業期間外では、日刀保たたら村下の指導のもと、ほぼ通年で以下の作

業を行っています。①たたら炭の生産（約36トン）、②粘土の選別と確保、③注文に応じての玉鋼発送作業、④その他適宜発生する業務。さらに、生産された玉鋼について全国の刀匠に頒布の文書を郵送しました。

7. 刀剣文化振興の助成事業

当協会の協力団体は3月末日現在国内に82団体、海外に4団体設立されており、全国及び海外の刀剣普及活動の拠点となっています。

〈国内82団体〉

日刀保根室支部 日刀保帯広支部 日刀保札幌支部 日刀保旭川支部
日刀保青森県支部 日刀保八戸支部 日刀保岩手県支部
日刀保秋田県支部 日刀保羽後秋田支部 日刀保庄内支部
日刀保山形支部 日刀保米沢支部 宮城県美術刀剣保存協会
日刀保会津支部 日刀保福島県南支部 日刀保いわき支部
日刀保福島支部 新誠会 日刀保高崎支部 日刀保茨城県支部
日刀保茨城県西北支部 土浦亀城刀剣会 日刀保栃木県支部
埼玉県刀剣保存協議会 日刀保千葉県東部支部 日刀保千葉県支部
日刀保東京都支部 日刀保東京多摩支部 日刀保横浜支部 鎌倉刀剣会
日刀保湘南支部 日刀保山梨県支部 日刀保新潟支部 日刀保長岡支部
日刀保富山県支部 越前愛刀会 日刀保石川県支部 日刀保若狭支部
日刀保福井支部 日刀保長野県南支部 日刀保長野県北支部
日刀保長野県東信支部 日刀保静岡岡支部 日刀保静岡東部支部
日刀保三河支部 日刀保名古屋支部 日刀保岐阜県支部
日刀保三重県支部 日刀保京都府支部 日刀保大阪支部
日刀保兵庫県支部 姫路しらさぎ刀剣会 日刀保奈良県支部
日刀保和歌山県支部 日刀保岡山県支部 日刀保山口県支部
広島県美術刀剣保存協会 日刀保島根県支部 日刀保鳥取県支部
日刀保香川県支部 日刀保四国讃岐支部 日刀保香川西支部
日刀保愛媛県支部 日刀保徳島県支部 日刀保高知県支部
日刀保北九州支部 日刀保八幡支部 日刀保博多支部
福岡美術刀剣振興会 福岡県文化財保存協会 日刀保筑後支部

日刀保熊本県支部 日刀保宮崎支部 日刀保延岡支部 日刀保長崎支部
日刀保佐賀県支部 葉隠刀友会 日刀保大分支部 日刀保大分県北支部
日刀保鹿児島県支部 薩摩刀栄会 刀剣研究会
〔海外4団体〕
ヨーロッパ支部 アメリカ支部 ロシア支部 イタリア支部

(1) 協力団体で開催する鑑賞会へ講師の派遣及び鑑賞刀剣の貸与

1の(2)鑑賞会事業参照。

(2) 協力団体で開催する鑑賞会へ鑑賞刀剣のみの貸与

令和3年度は11件。

(3) 協力団体で主催する刀剣類の展示会の助成及び共催

今年度は以下の1件がありました。

四国讃岐支部「名刀見参―京極家の宝刀ニツカリ青江公開」

II 管理部門

1. 会員の状況 34ページ表3の通り。

令和4年4月1日以降の新入会者は96名。

今後とも会員獲得に努めてまいります。

2. 職員に関する事項

職員数計28名 男子18名 女子10名(前期末比増減なし)

平均年齢 男子50歳 女子43歳

3. 役員会等に関する事項

(1) 令和3年度(定款第44条による理事会)

日時 令和3年4月19日(月)

議題 役員賠償責任保険の加入について

(2) 令和3年度第1回理事会

日時 令和3年7月8日(木) 午後1時30分から2時45分

議題 1 令和2年度事業報告及び決算(計算書類等及び財産目録)につ

いて

- 2 定時評議員会の招集について
 - 3 基本財産への繰り入れについて
- (3) 令和3年度定時評議員会
- 日時 令和3年7月28日(水) 午後1時30分から2時25分
- 議題 1 令和2年度事業報告及び決算(計算書類等及び財産目録)について
- 2 理事の選任について
- (4) 令和3年度臨時理事会
- 日時 令和3年7月28日(水) 午後2時30分から3時
- 議題 会長、専務理事及び常務理事の選定並びに職務代行順位の決定について
- (5) 令和3年度(定款第44条による理事会)
- 日時 令和3年12月6日(月)
- 議題 審査員の選任について
- (6) 令和3年度(定款第44条による理事会)
- 日時 令和4年1月20日(木)
- 議題 審査規程の改正について
- (7) 令和3年度理事会第2回理事会
- 日時 令和4年3月31日(木) 午後1時30分から3時
- 議題 1 令和4年度事業計画及び予算(資金調達及び設備投資の見込みを含む)について
- 2 規則類の改正について
 - 3 令和4年度審査員の選任について
 - 4 現代刀職展運営委員会委員の選任について
 - 5 伝位審議会審議委員の選任について
 - 6 刀剣博物館資料収集委員会委員の選任について
 - 7 役員賠償責任保険について

Ⅲ その他

- (1) 外部文化団体等からの出陳要請により協会所蔵文化財のほか、玉鋼、

砂鉄や、たたら製鉄の工程などのパネルを貸与しました。また各文化団体等からの要請により所蔵文化財等の画像を貸与しました。

- (2) 刀剣博物館は海外からの関心も高く、また協会主催の研修会に海外在住者の参加希望もあり、そうしたニーズにできる限り柔軟に対応してまいります。

- (3) 当協会は昭和23年に東京国立博物館内において設立され、昭和43年2月に代々木の地に会館を建設して移転しました。約半世紀を経過し、建物の老朽化が激しく、東京都墨田区旧安田庭園内両国公会堂跡地への新築移転計画を進め、墨田区をはじめとする関係各所との協議・検討を経て、平成28年7月に工事中、平成29年8月に竣工、刀剣博物館は平成30年1月19日より開館し、令和5年度中の公開承認施設取得に向け、関係機関のご指導を得ながら、引き続き準備を進めてまいります。また、墨田区とは移転時から友好関係を構築し、合同企画の実施等連携強化を図っています。

令和3年度事業報告には、定款第11条に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

令和4年6月

表 1

展示名	期間	一般	会員	招待	学生	中学生 以下	団体他	ぐるっとバス 利用者	計(人)
第66回重要刀剣等新 指定展	4. 1～ 4. 11※1	471	37	60	52	87	0	4	711
日本刀の見方パート Ⅲ 刃文	4. 17～ 7. 11※2	1,849	85	172	170	224	0	65	2,565
2021年度現代刀職展	7. 17～ 9. 20	1,660	106	245	176	347	0	32	2,566
特別重要刀剣等指定 制度 50周年記念 珠玉の名 品展	9. 25～ 12. 22	5,305	472	604	506	867	0	110	7,864
第67回重要刀剣等新 指定展	R4. 1. 8 ～ 2. 20	1,485	99	184	152	354	0	49	2,323
日本刀多彩なる造形 展	R4. 2. 26 ～ 3. 31※3	1,366	73	154	240	591	0	30	2,454
合計		12,136	872	1,419	1,296	2,470	0	290	18,483

(うち 外国人359人)

※1 会期は令和3年2月27日から4月11日まで。

※2 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言発令により4月25日から5月31日まで休館。

※3 会期は令和4年5月22日まで。

表 2

部 門	出品数	特賞	優秀賞	努力賞	入選
作 刀	37点	6点	7点	10点	14点
刀 身 彫	2点	0点	2点	0点	0点
彫 金	18点	0点	2点	6点	10点
研 磨	73点	7点	13点	16点	37点
白 鞘	10点	1点	2点	3点	4点
刀 装	5点	2点	1点	1点	1点
柄 前	15点	2点	3点	4点	6点
白 銀	12点	2点	1点	2点	7点
合 計	172点	20点	31点	42点	79点

白銀の部で1点落選となりました。

表 3

会員種別	国 内					海 外		計
	普通会員	学生会員	維持会員	優遇会員	終身会員	普通会員	終身会員	
令和4年3月31日	3,600人	22人	4人	5人	57人	239人	14人	3,940人
昨年度との差	-40人	-1人	-1人	±0人	±0人	+5人	±0人	-37人

貸 借 対 照 表

令和4年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当期末	前年度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	247,373,011	241,515,809	5,857,202
未収金	139,093,525	89,604,342	49,489,183
前払用金	124,484	97,760,150	△ 97,635,666
販売用書籍	23,478,859	24,710,190	△ 1,231,331
製材	87,816,007	91,249,003	△ 3,432,996
原料	3,266,885	4,731,843	△ 1,464,958
流動資産合計	501,152,771	549,571,337	△ 48,418,566
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	934,900,546	955,523,352	△ 20,622,806
預投資産	456,308,444	556,026,307	△ 99,717,863
有価証券	99,548,000	0	99,548,000
刀剣及び小道具	848,550,000	793,250,000	55,300,000
基本財産合計	2,339,306,990	2,304,799,659	34,507,331
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	69,100,496	77,863,858	△ 8,763,362
減価償却引当資産	119,476,655	119,476,655	0
刀剣学奨学積立資産	4,863,763	4,863,763	0
新刀剣博物館建設積立資産	31,489,409	31,489,409	0
資料購入資産	200,000,000	200,000,000	0
特定資産合計	424,930,323	433,693,685	△ 8,763,362
(3) その他固定資産			
建物	10,047,845	12,496,947	△ 2,449,102
構築物	442,400,965	494,922,163	△ 52,521,198
構築物	91,902,825	97,861,062	△ 5,958,237
機械装置	6,361,206	7,368,683	△ 1,007,477
什器備品	28,941,944	36,292,219	△ 7,350,275
土地	300,000	300,000	0
保刀及び小道具	70,000	70,000	0
研究用教材	168,447,824	167,647,824	800,000
絵画	15,367,000	15,367,000	0
ソフットウェア	10,114,118	10,114,118	0
その他固定資産	8,960,000	8,960,000	0
	92,685,312	0	92,685,312
	58,884	292,007	△ 233,123
その他固定資産合計	875,657,923	851,692,023	23,965,900
固定資産合計	3,639,895,236	3,590,185,367	49,709,869
資産合計	4,141,048,007	4,139,756,704	1,291,303
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	45,692,642	51,522,207	△ 5,829,565
前受金	25,164,720	28,334,831	△ 3,170,111
賞与引当金	3,545,131	2,729,678	815,453
流動負債合計	8,863,671	8,884,112	△ 20,441
2. 固定負債			
退職給付引当金	69,100,496	77,863,858	△ 8,763,362
固定負債合計	69,100,496	77,863,858	△ 8,763,362
負債合計	152,366,660	169,334,686	△ 16,968,026
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
国庫補助金	523,975	757,462	△ 233,487
寄附金	83,110,938	91,184,404	△ 8,073,466
受贈固定資産	133,300,000	78,000,000	55,300,000
指定正味財産合計	216,934,913	169,941,866	46,993,047
(うち基本財産への充当額)	(185,445,504)	(138,452,457)	(46,993,047)
(うち特定資産への充当額)	(31,489,409)	(31,489,409)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	3,771,746,434	3,800,480,152	△ 28,733,718
(うち特定資産への充当額)	(2,153,861,486)	(2,166,347,202)	(△ 12,485,716)
(うち特定資産への充当額)	(324,340,418)	(324,340,418)	(0)
正味財産合計	3,988,681,347	3,970,422,018	18,259,329
負債及び正味財産合計	4,141,048,007	4,139,756,704	1,291,303

正味財産増減計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	47,335	39,483	7,852
基本財産利息収益	47,335	39,483	7,852
特定資産運用益	911,826	913,454	△ 1,628
特定資産受取利息	911,826	913,454	△ 1,628
受取会費及び入会金	41,478,811	42,000,200	△ 521,389
会費及び入会金	41,478,811	42,000,200	△ 521,389
事業収益	449,595,403	450,479,371	△ 883,968
刀剣博物館入館料収益	13,844,433	14,897,500	△ 1,053,067
保存刀剣等鑑定会受取会費	299,330,000	271,010,000	28,320,000
重要刀剣等指定会受取会費	52,524,000	79,222,000	△ 26,698,000
鑑賞会受取会費	1,796,500	416,000	1,380,500
書籍売上高	5,006,615	4,955,031	51,584
出版売上高	4,857,494	5,450,139	△ 592,645
広告料収益	12,614,800	13,051,500	△ 436,700
伝位登録料収益	385,000	368,000	17,000
たの事業収益	59,236,561	61,109,201	△ 1,872,640
受取補助金等	12,883,487	5,408,487	7,475,000
受取国庫補助金	4,650,000	5,175,000	△ 525,000
受取地方公共団体補助金	8,000,000	0	8,000,000
受取国庫補助金振替	233,487	233,487	0
受取寄付金	8,903,466	8,526,316	377,150
一般寄付金	830,000	500,000	330,000
受取寄付金振替	8,073,466	8,026,316	47,150
雑収益	2,614,809	10,176,357	△ 7,561,548
受取利息	1,870	2,058	△ 188
為替差益	6,501	3,200	3,301
雑収益	2,606,438	10,171,099	△ 7,564,661
諸引当金戻入	8,884,112	8,421,912	462,200
賞引当金戻入	8,884,112	8,421,912	462,200
経常収益計	525,319,249	525,965,580	△ 646,331
(2) 経常費用			
事業費	523,516,631	460,703,866	62,812,765
役員報酬	3,248,000	3,102,400	145,600
給料厚生	150,155,955	139,781,319	10,374,636
福利厚生費	22,075,430	23,411,769	△ 1,336,339
貸付金	18,720,290	15,158,877	3,561,413
旅費交通費	5,077,265	2,433,233	2,644,032
通信運搬費	13,727,895	10,676,321	3,051,574
消耗品費	6,057,343	7,826,725	△ 1,769,382
印刷製本料	23,640,560	21,389,225	2,251,335
光熱水本料	6,943,489	6,499,088	444,401
修繕借料	26,076,287	14,121,322	11,954,965
賃租公課	21,963,672	17,902,172	4,061,500
助成費	19,307,040	28,200,920	△ 8,893,880
支保険料	5,780,800	5,719,600	61,200
支書籍仕入	3,113,302	2,629,156	484,146
支玉鋼材	4,598,578	3,588,540	1,010,038
支委託担	8,501,873	3,672,188	4,829,685
支委託金	127,167	138,207	△ 11,040
支委託費	51,152,574	44,030,551	7,122,023
支委託費	9,936,231	8,525,692	1,410,539
支委託費	1,107,711	677,392	430,319
支委託費	1,583,243	1,247,059	336,184
支委託費	89,395,503	86,724,986	2,670,517
支委託費	31,226,423	13,247,124	17,979,299

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
管 理 費	31,336,336	28,090,580	3,245,756
役 員 報 酬	3,552,000	3,117,600	434,400
給 料 手 当	3,064,407	2,852,680	211,727
福 利 厚 生 費	1,161,865	1,232,198	△ 70,333
旅 費 交 通 費	2,194,709	1,515,084	679,625
通 信 運 搬 費	722,521	561,912	160,609
消 耗 品 費	526,726	680,585	△ 153,859
光 熱 水 料 費	603,782	565,138	38,644
修 繕 借 費 料	2,267,503	1,227,941	1,039,562
賃 借 保 險 料	1,653,180	2,117,475	△ 464,295
支 払 保 險 料	593,010	500,792	92,218
顧 問 料 金	6,540,050	6,429,500	110,550
支 払 負 担 費	57,133	62,093	△ 4,960
広 告 宣 伝 費	307,306	263,681	43,625
渉 外 費	226,880	138,743	88,137
雑 費	32,311	25,450	6,861
減 価 償 却 費	6,188,089	6,100,695	87,394
退 職 給 付 費	1,643,496	697,217	946,279
会 議 費	1,368	1,796	△ 428
経 常 費 用 計	554,852,967	488,794,446	66,058,521
当 期 経 常 増 減 額	△ 29,533,718	37,171,134	△ 66,704,852
2. 経 常 外 増 減 の 部			
(1) 経 常 外 収 益			
固 定 資 産 受 贈 益	800,000	1,900,000	△ 1,100,000
経 常 外 収 益 計	800,000	1,900,000	△ 1,100,000
(2) 経 常 外 費 用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	800,000	1,900,000	△ 1,100,000
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△ 28,733,718	39,071,134	△ 67,804,852
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	3,800,480,152	3,761,409,018	39,071,134
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	3,771,746,434	3,800,480,152	△ 28,733,718
II 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
固 定 資 産 受 贈 益	55,300,000	0	55,300,000
一 般 正 味 財 産 振 替	△ 8,306,953	△ 8,259,803	△ 47,150
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	46,993,047	△ 8,259,803	55,252,850
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	169,941,866	178,201,669	△ 8,259,803
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	216,934,913	169,941,866	46,993,047
III 正 味 財 産 期 末 残 高	3,988,681,347	3,970,422,018	18,259,329

財 産 目 録

令和4年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金		運転資金として	1,782,566
	普通預金	みずほ銀行 新宿新都心支店 他	運転資金として	231,363,723
	郵便貯金	代々木郵便局振替口座	運転資金として	14,226,722
	未収金		審査事業における審査料 他	139,093,525
	前払金	NTT東日本 他	通話料金の前払い分 他	124,484
	販売用書籍	「入札鑑定同然帳」他	出版書籍の在庫である。	23,478,859
	製品	島根県仁多郡奥出雲町	玉鋼の在庫である。	87,816,007
	原材料	島根県仁多郡奥出雲町	玉鋼の材料の在庫である。	3,266,885
流 動 資 産 合 計				501,152,771
(固定資産) 基本財産	建物	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8%	934,900,546
	普通預金	三井住友信託銀行新宿支店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用している。	67,066,335
	定期預金	三井住友信託銀行新宿支店 他		389,242,109
	投資有価証券	国債		99,548,000
	刀剣及び小道具	日本刀 他	公益目的保有財産であり、協会の事業の用に供している不可欠特定財産である。	848,550,000
基 本 財 産 合 計				2,339,306,990

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
特定資産	退職給付引当資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店 定期預金みずほ銀行新宿新都心支店 他	職員17名に対する退職金の支払いに備えた積立資産である。 18,669,619 50,430,877
	減価償却引当資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	将来の固定資産への投資のための引当資産である。 12,989,532
		定期預金三井住友信託銀行新宿支店	10,000,000
		国債	96,487,123
	刀剣学奨学積立資産	定期預金荘内銀行東京支店	4,863,763
	新刀剣博物館建設資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	刀剣博物館建設事業の寄付金である。 31,489,409
	資料購入資産	東京東信用金庫両国支店	博物館での展示、鑑賞会、研究その他に活用する資料を取得するための資産である。 200,000,000
	特定資産合計		
その他の固定資産	建物	島根県仁多郡奥出雲町	(供用財産) うち、公益目的保有財産99.4% うち、管理目的の財源として使用する財産0.6% 10,047,845
	建物付属設備	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産94% うち、管理目的の財源として使用する財産6% 442,400,965
	構築物	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8% 91,902,825
	機械装置	島根県仁多郡奥出雲町 東京都墨田区横網1-12-9	公益目的保有財産である。 6,361,206
	什器備品	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8% 28,941,944
	その他固定資産	東京都墨田区横網1-12-9	58,884
	土地	長野県上田市	300,000
	保証金	(株)セコム	セキュリティシステム等の保証金として預けているものである。 公益目的保有財産である。 70,000
	刀剣及び小道具	東京都墨田区横網1-12-9 日本刀 他	公益目的保有財産である。 168,447,824
	研修用教材	東京都墨田区横網1-12-9 刀剣及び小道具	公益目的保有財産である。 15,367,000
	絵画	東京都墨田区横網1-12-9 日本画 他	公益目的保有財産である。 10,114,118
	図書及び押型	東京都墨田区横網1-12-9 網屋押型 他	公益目的保有財産である。 8,960,000
	ソフトウェア	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産95% うち、管理目的の財源として使用する財産5% 92,685,312
	その他固定資産合計		
固定資産合計			3,639,895,236
資産合計			4,141,048,007

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	未払金	職人 他	委託作業費 他	45,692,642
	前受金	個人会員 他	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する会費等である。	25,164,720
	預り金	職員他	社会保険料 他	3,545,131
	賞与引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	8,863,671
流動負債合計				83,266,164
(固定負債)	退職給付引当金	職員	職員17名に対する退職金の支払いに備えたものである。	69,100,496
固定負債合計				69,100,496
負債合計				152,366,660
正味財産				3,988,681,347

監査報告書

公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
会長 酒井忠久 殿

令和4年6月7日

公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
監事 大久保 洋吉

公益財団法人日本美術刀剣保存協会における令和3年4月1日から令和4年3月31日までの監査の方法及び結果について、次のとおり報告いたします

1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事会などの会議に出席し、理事及び担当者からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告等及び会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、計算書類（貸借対照表・正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について監査いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 1) 事業報告は、法令及び公益財団法人日本美術刀剣保存協会定款に従い、法人の状況を正しく表示しているものと認めます。
- 2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは公益財団法人日本美術刀剣保存協会定款に違反する事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を正確に示しているものと認めます。

以上